



粟中だより

全国学力調査結果分析から

2015.11. 発行

4月21日に中学3年生を対象に実施された、「全国学力・学習状況調査」の結果とその分析から見てきた粟野中学校生徒の特徴と課題についてお知らせします。これらの結果をもとに、学校全体で指導法改善に取り組み、学力のさらなる向上を目指していきますので、ご家庭の方でもご協力のほどよろしくお願ひします。

なお、本調査によって測定できるのは、子供たちの学校における教育活動の一側面です。序列化や過度な競争が生じないようにするため、教育上の効果や影響等に配慮して記載いたします。

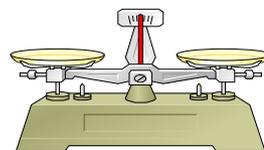
教科に関する結果から

『国語』について



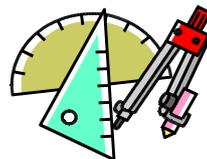
さらに伸ばしたい部分	課題として取り組む部分
<p>○ A問題の言語に関する知識・理解についての問題では、県平均を上回る成果がみられる。授業初めにルーティーンとして定着している漢字や文法の学習の成果と考えられる。➡今後も内容の充実を図り継続していく。</p> <p>○ B問題の記述問題など、自分の考えを記述する問題にも積極的に取り組めるようになっている。読書への意識の高まりも見られるようになってきている。➡さらに読書量を増やしたい。朝読書の時間を取るなどして、1日の中に本を読む時間を確保できるようにしていく。</p>	<p>○ 2つ以上の部分や情報を読み取って答えることや、読んだことのない文脈で問われる語句になると答えられない。また、複数の条件を的確に捉えて答える力が弱い。➡授業の中で、応用力・活用力を鍛え、問題対応力を高める学習を積極的に取り入れていく。</p> <p>○ 読書量が著しく低いことが、応用力に欠ける原因となっているので、朝読書の時間をなるべく取るようにして、普段から本を読む習慣を身につけられるようにしていきたい。➡図書室の本だけではなく、自分で準備した本を友だちに紹介することも勧めていく。</p>

『理科』について



さらに伸ばしたい部分	課題として取り組む部分
<p>○自然事象についての知識を問われる問題に関しては、正答率も高く、ほとんどの問題で県平均を上回っている。</p> <p>○グラフや資料から事実を読み取る問題は比較的正答率が高い。→分野によっては、得意不得意がはっきりしているので、授業や課題に取り組む中で、自然事象に関する知識を広げられるよう工夫していく。</p>	<p>○資料や実験結果を考察したり、理由を説明したりすることに苦手意識を持つ生徒が多く、正答率も低い。→実験の結果や資料についてグループで考察したり、結果の考察や理由を記述したりする機会を多くとるようにしていく。</p> <p>○地学的領域の正答率が低い。→資料やグラフをもとに考える問題が多いので、読み取り方や解き方のパターンを考えながら問題を解くように指導していく。</p>

『数学』について



さらに伸ばしたい部分	課題として取り組む部分
<p>○計算コンテストの成果から、計算問題ではほとんどの問題で県平均を上回っている。→正しい等式の性質を選んだり、正しい記述を選んだりする問題では正答率が下回るため、計算をこなすだけでなく、その意義を考えさせる授業を目指す。</p> <p>○反比例のグラフやデータから中央値を求める問題等、知識を問われる問題では、5ポイント以上、県平均を上回っている。→知識は定着しているので、確実に問題の中で生かせるように、授業等で積極的に取り上げ、知識を正答率につなげられるようにする。</p>	<p>○面積を S という文字で表すことへの理解が不足していたり、内角の和について公式が示す意味を理解していなかったりしている。→教科書が示す公式をきちんと押さえることはもちろん、その公式が得られる理由を数学用語で説明できる力を育てる。</p> <p>○「およそ」と「必ず」の違い等、問題文中に出てくる言葉を正しく理解していないことが理由となる誤答が数多く見られた。→知識を確実に正答率につなげるため、授業や課題で類題に慣れさせ、問題文と数学用語の関係を考えさせる授業を展開していく。</p>